

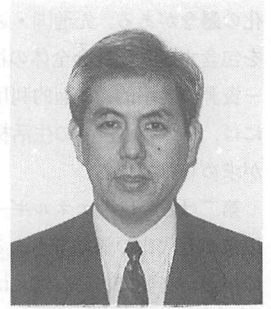
## ■ 論 説 ■

## 世界エネルギー会議東京大会開催に際して

On the 16th Congress of the World Energy Council

横 堀 恵 一\*

Keiichi Yokobori



## 1. はじめに

10月8日から幕張の日本コンベンションセンター(幕張メッセ)で世界エネルギー会議第16回(東京)大会が開かれる。戦後50年にあたり、21世紀を5年後に控える本年、東アジアで初めての世界エネルギー会議(WEC: World Energy Council)の大会を開催することは、いろいろな点で、意義深い。茅陽一・東京大学名誉教授には、テクニカル・プログラム委員長としてご指導をいただいているが、この大会の意義について本誌上をお借りして、述べさせていただきます。

## 2. 世界エネルギー会議とは

世界エネルギー会議の沿革は、1924年開催の世界動力会議(World Power Conference)に遡る。当初は、電力関係の技術者・科学者を中心とする民間国際組織として発足し、エジソンやアインシュタインの名も参加者の中に見えた。戦後は、エネルギー全体を取り上げ、技術問題だけではなく、エネルギーを巡る経済・社会問題も取り扱うようになり、この発展を反映し、1968年にはWorld Energy Conferenceと改称、さらには1990年にWorld Energy Councilと再度名を改めた(日本語ではいずれも世界エネルギー会議)。現在、約100カ国に国内委員会が成立し、主要なエネルギーの生産国、消費国は、ほとんど網羅されている。世界エネルギー会議の大会は、3年ごとに開催されているが、大会の間の3年間にテーマを決めて、研究活動を行い、大会時期に合わせた成果の発表を行っている。「各国のエネルギー・データ」(National Energy Data)や「エネルギー資源調査」(Survey of Energy Resources)等がこれである。最近では、「明

日の世界のエネルギー」(Energy for Tomorrow's World)という2020年までの長期展望もこのような活動の中から生まれている。民間国際組織としての性格には変わりはないが、その活動には、国際エネルギー機関(IEA)、石油輸出国機構(OPEC)、国際原子力機関(IAEA)等の政府系国際機関も、世界石油会議(WPC)、国際ガス連盟(IGU)等の民間国際エネルギー団体等と一緒に参加し協力している。

## 3. 世界エネルギー会議の定期大会

世界エネルギー会議の定期大会は、当初の6年間隔から短縮した3年間隔で開催されるが、これまでに15回開催されている。これまでの大会の内、半分以上が西欧で開かれ、アジア・太平洋地域では2度しかない。最近の大会の状況は、約5000人規模の参加者を得る大規模なものとなっている。他方、テーマについて見ると、電力中心のものからエネルギー資源へ、更にはエネルギーと他の社会・経済問題とのかかわり合いを取り上げるようになってきている。参加者は、エネルギー関係の閣僚他の政府関係者、企業・業界の会長他の関係者、学会関係者、報道関係者等広い範囲にわたり、役員級の人々が三分の二を占める。東京大会でも、このような流れの中で広い範囲の有識者が多数出席されることが予想される。なお、その次の1998年の大会開催地は、米国のテキサス州のヒューストンである。

## 4. 東京大会のテーマと視点

東京大会のテーマは、「エネルギーと人類の将来：われわれは何を求められているか」であるが、その視点は以下のとおりである。

第一は、エネルギー問題を我々の生活との広く深い係わりの中で、又、世界的な視野で捉えることである。エネルギー問題が経済発展問題と密接に係わっているが、環境汚染とも関連がある。化石燃料浪費型の工業文明による経済発展では、資源枯渇、環境汚染の深刻

\* (財)世界エネルギー会議東京大会組織委員会 専務理事・事務局長  
〒105 東京都港区虎ノ門4-3-13 秀和神谷町ビル

化の懸念がある。先進国・途上国間の経済格差の縮小を包含する人類社会全体の福祉向上のためのエネルギー資源の効率的、多面的利用が必要である。このためには、われわれ自身の生活様式も含めた行動の再検討が求められている。

第二は、今日のエネルギー問題の多くは、産業革命以来の近代化の帰結でもあるが、その解決には、長期の視点が必要である。例えば、気候温暖化等の地球規模の環境問題については、これまでの産業活動や消費活動の累積的な結果でもあり、一朝一夕の解決は不可能である。しかし、現在のエネルギーの需給パターンが来世紀中に100億に達するという人口の趨勢を合わせ考えると、資源枯渇、環境汚染の深刻化を招く恐れが大きい。次の世代の事も考える必要がある。従って、長期的な視野の必要性は、決定を先延ばしすることではなく、目先のことにだけ捕らわれた決定をすべきでない、と言うことである。

第三は、大会参加者の多くが実務家であることから、問題提起に終わらせず、行動に結びつく議論をすることを大会が求めている。観念的な議論に止めない、という希望がテーマに込められている。

## 5. 東京大会の見所

東京大会のテーマは、4部会（エネルギーと経済発展、将来の持続可能なエネルギーの供給、効率的なエネルギー利用及びより良い環境のためのエネルギー）に展開された上、13の論文セッションで決められたテーマに沿った議論が行われる。この部会と論文セッションの議論の問題提起と総括がそれぞれ、9日の基調講演と12日の総括セッションで行われる。大会での議論の方向を知るには、この二つの全体会合が役立つ。基調講演は、部会ごとに、キム・チュルス世界貿易機構（WTO）事務局次長（前韓国通商産業部長官）、ジョン・ジェニングス ロイヤルダッチ・シェル・グループ最高経営会議メンバー、ジャック・ウェルチGE会長兼最高経営責任者及び那須翔 東京電力会長が、総括報告も部会ごとにエマド・エルシャルカウィ元エジプト電力庁長官、ジュッセッペ・スフリジオッティ SCI（ENI子会社）会長、江崎格 資源エネルギー庁長官及びピエール・ガドネックス フランス・ガス公社総裁である。13のセッション中、「環境と技術」を論ずるセッション4-1は、岡久雄NEDO前理事長が議長を務める。

次に、論文募集に基づかず、長期的展望による地球

規模のエネルギー関連の戦略的問題について、著名人による招待講演がある。招待講演GEA1「21世紀に向けてエネルギーシステム」は、エネルギーシステムマネージメントの新しい役割と、21世紀初頭におけるマネージメントの見通しについての講演で、講演者は、リチャード・ジョルダノ ブリテイッシュ・ガス会長、葉青 中国国家計画委員会主席、等である。招待講演GEA2「転換期の世界におけるエネルギーの地政学」は、経済成長におけるエネルギーの役割、エネルギーと地政学の相互作用等についての講演で、講演者は、アンドレ・ジロー元フランス工業及び国防大臣及びエディス・ナワクウィ ザンビア・エネルギー大臣である。個別の地球規模のエネルギー問題を政策決定者、企業経営者、各分野の専門家のパネリストにより討議するパネル討論（RT）は6つのセッションが用意されている。

RT1セッション「政府規制と市場競争の調和」では、全世界のエネルギー分野で進展している民営化、分割等の規制緩和を背景にいろいろなエネルギー問題に対し、望ましい政府規制と市場要因を組み合わせを論じるもので、デイビッド・ジェフェリー 英ナショナル・グリッド会長が議長であり、大西正文大阪ガス会長が日本からのパネリストである。

RT2セッション「アジア/太平洋地域におけるエネルギー開発：課題と展望」はこの地域のエネルギー開発がかなり効果的に行われた理由について、文化的・物質的両面から検証を行うもので、議長は、フェレイドゥン・フェジャラキ（東西センター）で、日本から佐波正一 東芝相談役がパネリストである。

RT3セッション「生活とエネルギー：理想と現実」は、エネルギー問題の現実と人々のそれに対する認識の間にどのような溝が存在するのかといった問題を取り上げ、議長は、ジャーナリストのルウェリン・キングである。

RT4セッション「エネルギー開発と金融」では、エネルギー開発への投資には金融が逼迫する中で、エネルギー開発投融资の成功例・失敗例を議論する。

RT5セッション「交通問題と環境：技術でどこまで解決できるか」では、マーティン・ベッケンハイエン シュタットオイル副社長が議長となり、鶴巻良輔昭和シェル石油相談役がパネリストになる。

RT6セッション「エネルギーと環境：2100年からの視点」では西暦2100年という展望のきく立場から、前世紀を回顧した形でエネルギーおよびエネルギー関

連問題の展開について議論をするもので、ハンス・ディーター・シリング ドイツ大型発電企業連盟理事長が議長となる。

昼食時の講演会としての特別講演 (SCA) として、特別講演SCA 1 では気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 議長ベルト・ボリン氏 (スウェーデン) の「気候変動に関する論議と今後」、また特別講演SCA 2 では小林庄一郎 関西電力会長の「電気事業経営とTQC」と言う講演が行われる。

以上の他、定期大会では、定期大会間の3年に行われたWECの色々な研究調査が報告される。これが、8つの作業部会 (WG) セッションである。この内、WG 1は、スタディス委員長のジャン・ベルグニューフランス国鉄総裁 (前フランス電力総裁) が議長となり、総括的な報告を行うものである。他の7つのWGは多くがRTとも関連があり、これらのテーマでは、WGにおいては、実証研究報告が行われ、RTにおいては、実務者側からその報告を受けての、対応が議論される。

本大会の新しい試みとして、最終日13日 (金) 午前中に開催の日本のエネルギーセミナー (JES) は、国内外の政府および企業関係者に、大会テーマおよび大会期間中の討論を反映しつつ長期的、地球的エネルギー展望からみた日本の役割について議論するもので、最初のセッションは、ヘルガ・シュティーク前IEA事務局長の基調講演と日本の業界首脳によるパネル、次のセッションは通産大臣の講演と出席のエネルギー閣僚によるパネルから成る。

(各セッションのタイトルについては表参照)。

#### 表 セッションのタイトル

##### 論文セッション (PAPERS SESSIONS)

###### 第1部会：エネルギーと経済発展

PS 1.1：エネルギー・経済インターフェイス

PS 1.2：エネルギー資源・供給

PS 1.3：国際・地域協力

PS 1.4：発展途上国および旧ソ連・

東欧圏のエネルギー

###### 第2部会：将来の持続可能なエネルギー供給

PS 2.1：エネルギー供給システム

PS 2.2：化石エネルギー新技術

PS 2.3：非化石エネルギー技術

PS 2.4：エネルギー供給の社会的側面

###### 第3部会：より効率的なエネルギー利用

PS 3.1：効率的なエネルギー利用技術

PS 3.2：省エネルギー政策

###### 第4部会：より良い環境のためのエネルギー

PS 4.1：地球環境問題

PS 4.2：環境対策技術

PS 4.3：環境政策

##### 招待講演 (GLOBAL ENERGY ADDRESSES)

GEA 1：21世紀に向けてのエネルギーシステム

GEA 2：転換期の世界におけるエネルギーの地政学

##### パネル討論 (ROUND TABLES)

RT 1：政府規制と市場競争の調和

RT 2：アジア/太平洋地域におけるエネルギー開発  
：課題と展望

RT 3：生活とエネルギー：理想と現実

RT 4：エネルギー開発と金融：成功例と失敗例

RT 5：交通問題と環境：技術でどこまで解決できる  
か？

RT 6：エネルギーと環境：2100年からの視点

##### WEC 調査報告 (WEC WORKING GROUP SESSIONS)

WG 1 (Plenary)：WECプロジェクト総括セッション

WG 2：中・東欧圏のエネルギー

WG 3：経済的手段と環境問題の解決

WG 4：発展途上国のエネルギー開発と財政

WG 5：エネルギーの合理的利用 (交通、ハイテク、  
政策)

WG 6：地域のエネルギー・環境問題

WG 7：長期エネルギー展望

WG 8：火力発電所の運転実績

##### WEC 新刊紹介 (NEW WEC PUBLICATIONS)

##### 特別講演 (SPECIAL CONGRESS ADDRESSES)

SCA 1：気候変動に関する論議と今後

SCA 2：電気事業経営とTQC

##### 日本のエネルギーセミナー (JAPAN ENERGY SEMINAR)

JES 1：長期的かつ地球的規模での日本のエネルギー  
問題の課題 (仮)

JES 2：長期的かつ地球的規模での日本のエネルギー  
協力の課題 (仮)

## 6. 関連行事の狙い

東京大会の関連行事としては、以下のようなものがある。

### 1) ユース・エネルギー・シンポジウム (YES)

モントリオール大会でも実施されたが、本大会のテーマが未来指向であることにも鑑みて、関連行事として会場近くの海外職業訓練協力センター (OVTA) に世界各国の若者を集め、エネルギー問題について討論させる。テーマは、「エネルギーと人類の将来—私たちはこう考える」とし、若者の目から見たエネルギーに関するアイデア、提案、実験計画等を基に議論するもので、その議論の要旨は前述の総括セッション (RS) で報告される。

### 2) 世界エネルギー展東京'95

世界エネルギー展東京'95は、世界エネルギー会議の開催を機に、これと同じテーマで開催し、内外のエネルギー供給者のみならず関連設備機器製造者、政府公共機関、関連団体、さらには利用者である一般の方々も含めた、エネルギーに関連する技術情報の交流を視覚に訴えたエネルギー問題の啓蒙を目的とする。

10月8日から12日までの5日間幕張メッセ国際展示場4, 5, 6ホールで開催される。

### 3) 第6回電気のみさとじま市

「電気のみさとじま市」は、電源地域の市町村と電気の消費者である都市生活者の交流の場を作り、都市生活者の電源地域への理解を深めることを目的として開催され、毎年、日本各地の電源地域から200以上の市町村が参加して、各地の特産品の展示・販売を

したり郷土芸能を披露する。10月8日から10日までの3日間、幕張メッセの展示場で開かれる。

### 4) グランド・ソーラー・チャレンジ国際会議1995

太陽エネルギーを中心として再生可能エネルギーの開発・普及に関する世界各国、国際機関等のプログラムを展望し、現状における諸問題と長期的な期待とのギャップをどう克服していくかについて討議する国際会議で、そのテーマは、「今 何故 再生可能エネルギーか：開発と普及のための課題と対応」である。この会議は、10月7日午後1時にシャープ幕張ビル多目的ホールで開かれる。

## 7. 東京大会の意義

東京大会では、名誉総裁に皇太子殿下、名誉会長が平岩外四経団連名誉会長が就任され、国、千葉県の支援を得て開催される。

エネルギーは、産業活動及び国民生活の基であり、その安定供給の確保、安全性の確保は、日本のみならず、世界共通の課題である。しかし、各国の抱える問題は、産出国、消費国、先進工業国、途上国、移行期経済圏等により様々である。

世界のエネルギー市場で大輸入国の一つとして影響のあるわが国において、エネルギー問題をめぐり、様々な立場の人々が集い、共通の関心事項として議論し合うとともに、日本の経験や技術について評価を得ることは、極めて有益であると考えられる。戦後50年目の今年、この会議を成功させることは、日本の一つの貢献であるとも考える。

協賛行事ごあんない

## 「資源・素材'95 (するが)

(平成7年度資源・素材関係学協会合同秋季大会)」について

<主催> 資源・素材学会

<会期> 1995年9月18日(月)～20日(水)

<会場> 東海大学海洋学部8号館及び4号館

(静岡県清水市折戸3-20-1)

<参加費> 主催・共催団体会員及び講演者 6,000円

会員外 8,000円、学生会員無料等。

懇親会費 5,000円 (講演資料有料頒布)

<申込み・問合せ先>

東京都港区赤坂9-6-41

資源・素材学会秋季大会係

TEL 03-3402-0541, FAX 03-3403-1776